先輩監督官からのメッセージ

栃木労働局
労働紛争調整官
齋藤　繭子
平成13年度任官（A監）

Q：妊娠中から産前休暇前までの職場のサポート・雰囲気は？

- 第１子妊娠当時、何かと「ご迷惑をおかけします」という言葉を前置していた私に対し、署長から「当然ある権利行使をするのだから、迷惑をかけるなんて言葉を使ってはいけない。誰もが通る道なのだから、堂々と権利行使することが、後輩のためにもなる。」と言われたことが忘れられません。
- そのような風潮があったためか、遠慮せずに体調に関する相談をすることもでき、自然な流れで周囲の方たちからサポートしていただけました。特に、精神的にハードな相手への対応等、中堅の監督官を中心に積極的にカバーしてくれたため、妊娠中に精神的なストレスを感じずに就業できたことは非常に感謝しています。

Q：育児休暇から業務に復帰した際、職場のサポートは？

- 育休復帰後、最初は保育園に慣れていない子供の発熱等で突然保育園から呼び出されることが多くありましたが、職場では嫌な顔一つされずサポートしてもらえました。
- 監督官の業務は臨検監督等、自らスケジュール組んで業務を実施することが可能であるため、スケジュール管理ができていれば時短勤務をしていて支障はなく、司法業務など重めの仕事でも十分に遂行することができることが特徴です。育休復帰後も自分のやりたい仕事を責任を以って行うことができ、子育てとの板挟みのようなジレンマを感じることも一切なく、のびのびと仕事をさせていただきました。
- 直近5年間は、管理職という立場でありながら育児のための時短勤務制度を利用していました。周囲のサポートがあったことと、受動的な業務ばかりでなく、能動的主体的に業務を進められる監督業務の特性から割り振られる仕事に関しては遅滞なく遂行することができ、ストレスを感じることはありませんでした。また子育ての経験が部下の管理に役立つことも多々あります。そういう意味で、妊娠や出産、育児との両立を考えている方にこそ監督官の仕事はお勧めです。

監督官を目指す女性へ！

- 監督官の業務は、刺激に満ちていてまったく飽きることがない業務です。監督業務において、誰かにやらされている「労働」という気持ちになったことはありませんでした。行政指導も司法業務も担当事案に集中してくると、どのように業務を遂行していくかを考えるのが楽しくて仕方ない仕事です。まさに一生モノの仕事だと思っています。フットワークを生かしたい方、単調なデスクワークを求めてはいない方には最適な仕事だと思います。
- 法令を遵守させるために説得して動かさなければならない相手とは、最終的には会社の代表者など人間なので、すべての人生経験が生かせる仕事であり妊娠、出産によるブランクさえも強みにすることができることも魅力的な点であると思います。